



絵本の紹介

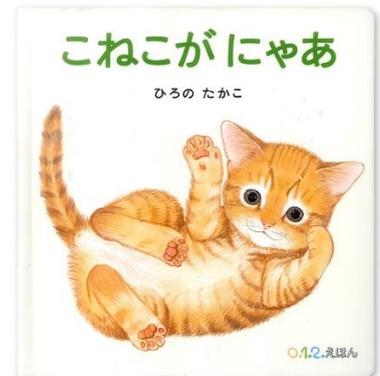
～3歳未満児クラスおすすめ～



〈あいぐみ〉

『こねこが にゃあ』 作 ひろのたかこ 出版社：福音館書店

お母さんねこが呼ぶと「にゃあ」と鳴いて、かごの中や紙袋、カーテンの陰から可愛いねこが出てきてみんなお母さんねこのもとにやってきます。『いないいないばあ』の感覚なのか、子どもたちは何度もくり返しめくろうとします。そしてこねこが出てくるたびにニコニコ、パチパチ手を叩いたり、とっても嬉しそうです。ぜひおうちの方も一緒に見て楽しんでください。



〈うみぐみ〉

『どんぐりどんぼろりん』 作：武鹿 悦子 絵：柿本 幸造

出版社：チャイルド本社

「とん ぼろりん」とかわいいう音を立てて、どんぐりが木から落ち、ころころ転がるその音を聞きつけて、リスとくまが出会い、そこでどんぐり集めが始まります。2人でたくさん集めたどんぐりを、食べてみたり遊んでみたり、...

子どもたちが口ずさみやすい言葉が繰り返し出てきます！

この絵本を読んだら、きっとどんぐりを探したくなること間違いなし！！

この時期にぴったりの1冊です！！

どんぐりどんぼろりん

作：武鹿悦子 絵：柿本幸造



〈はなぐみ〉

『ばけばけばっば』 写真・文：藤本 ともひこ 出版社：ハッピーオウル社

落ち葉や木の実を使って色々な動物を作った写真絵本です。はじめに動物の一部分だけ見えており、「ふーってはっばをふいてみて。ふー！」というセリフで次のページをめくると動物の全体が見えるという仕組みになっています。このセリフに合わせ、子どもたちも絵本に顔を近づけ「ふー！」と息を吹くことや、「うさぎが出てきた！」など友達や保育者とやりとりを楽しんでいます。秋は紅葉と実りの季節でもあるので、子どもたちと落ち葉や木の実を集めて絵本に出てくる動物たちを作るのも絵本の世界観を体験出来て面白いと思います。

